

(紙芝居)

①ここは、今から四〇〇年ほど昔の近江の国(滋賀県)小川村。村には、いくすじもの小川があり、一年中清らかな水が流れている村です。小川には、めだかやふながすーいすい。



道や野原には、きれいな花が咲いています。おや、空にはひばりも鳴いているよ。

中江藤樹

先生は、このような小川村で生まれて、すくすくと大きくなりました。藤樹先生の名前は、「与右衛門」と言いましたが、先生の家には、大きな藤の木がおいしげっていたので、大人になつてからは、「藤樹先生」と呼ばれるようになりました。



②与右衛門さんの家は、お父さん、お母さん、そして、妹、葉さんの四人で暮らしています。お父さんたちは、

米作りや畑仕事をしています。

③与「お父さん、お母さん、おはようございます。」

母「おはよう。与右衛門。今日も元気にごあいさつができましたね。」

父「与右衛門、今日から、いよいよ田植えを始めるよ。とても忙しくなるから、お葉といっしょに手伝いをしておくれ。」



与「はい、分かりました。」

母「おむすびをこしらえて、田んぼまでもつてきてくださいね。」

与「はい、分かりました。」

父「おむすびを運んだら、苗くぼりを手伝っておくれ。」

与「はい。」

母「お葉と二人で、なかよくやりなさいね。」

与「はい。」

④与右衛門さんが、葉ちゃんを連れて田んぼに行くと、近所のお婆さんが、手伝いにきていました。

与「お婆さん、こんにちは。」

お婆さん「あれっ、与右衛門ちゃんとお葉ちゃん、こんにちは。」

与「お父さん、お母さん、お婆さん、手伝いかい。えらいね。」



も、にこにこして、うれしそうです。

母「ありがとう。」

父「ごくろうさん。さあ、次の仕事を手伝っておくれ。」

与・葉「はい。」

二人は元気に苗くぼりを始めました。

⑤父「お日様が、真上だね。そろそろお昼にしよう。さあ、みんなですいしよにお弁当をいただいこうか。」

葉「わーい、ここで食べるの?」

母「そうですよ。さあ、早く食べるしたくをしましょうね。」



みんなは、むしろを広げました。与「いただきます。きまーす。……モグモグ、ゴクリ……わあ、おいしい。みんな、

お弁当を食べるととってもおいしいですね。」

葉「お外で、みんなと食べるのは、楽しいね。」

お婆さん「与右衛門ちゃんとお葉ちゃんは、いつも仲良し。感心だねえ。」

母「ほら見てごらんささい。かえるもお前たちと同じように仲良くしていますよ。」

葉「ほんとだ! お兄ちゃん、見て。」

与「あーっ、仲良く泳いでいる。楽しそうだな。」

⑥夕方、田植えを終わって、みんなでごはんを食べています。

父「与右衛門、ごはんはおいしいか?」

与「はい、とてもおいしいです。」

父「いいかい、与右衛門。今日、みんな田植えをしただろう。あの小さな苗から、このごはんになるお米がとれるんだよ。知っているかい?」

与「はい。」



父「このごはんになるまでに、一年近くの間がかかるんだよ。」お父さんが、お米の話を始めました。